

# 2023年度 学校評価(自己評価)

学校法人 相愛学園  
武蔵野相愛幼稚園

当園教職員の自己評価に合わせて、保護者代表の評議員にも評価をいただき、2023年度の保育の総括と園運営についてまとめました。これを受けて、次年度も保育の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 園の教育目標

武蔵野相愛幼稚園の建学の精神である「相愛」(互いに愛し合ひましよう)の実践の場として、キリスト教を基盤とする保育を行う。  
礼拝や日常の保育を通して、目には見えない神さまを知り、神と人々に愛されている存在として安心して過ごし、希望をもって生きることを大切にする。また、周囲の人々と喜びや悲しみの感情を共にする生活の中で、すべての人が神さまから愛されているかけがえのない存在であることを知り、互いに尊重する関係へと育ちあうことを願う。一人ひとりの子どもが、その子らしさを大切に、友だちや保育者と出会い、満足するまで遊ぶ体験を重ねることを通じて、共に生きることの自信を培う。

## II. 2023年度の重点目標

保育の年主題に、「ともにつむぎだす ～希望の中で～」を掲げ、新約聖書 エフェソの信徒への手紙 2章17節「キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。」の聖句をその中心に据えて、園児、保護者、保育者が、神の家族として繋がり、歩む一年としたい。また、希望の中にあつて、神と人との関係、人と人との関係を通して、真の平和をつむぎだす喜びと価値に気づきながら、共に育ち合う保育の日々とする。

## III. 2023年度の評価項目の達成 及び 取り組み状況

### 教育課程

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<b>1,教育目標</b>  学年を超えた活動を積極的に取り入れ、園全体がひとつの家族のように関わり合い、成長しあい、子どもたちが互いに学び合う姿が見られた。 子ども同士のやりとりでは言葉や表現に不足があるところも、保育者が積極的に関わり、子どもたちと一緒に考えていくという姿勢で保育に向き合えた。保育者同士で日々の子どもの姿を共有し、その姿を共に喜び、悩み、考え、また保護者ともその事を分かちあっていくことができた一年であった。	A	幼稚園は、子どもの生活の場であり、家庭とも学校とも違う。子ども同士が繋がる場、信頼できる大人(保育者)に出会う場、神様を感じる場として、相愛幼稚園にしかない生活を作る。子どもたちの遊びに積極的に関わり、遊びの仲間に入りながらやりとりを支えていく。異学年の交流は引き続き大切にしながら、成長しあえる関係性を築いていきたい。
<b>2,保育日数・保育時間</b>  保育日数 188日(年長組) 年少組：4/10～4/17 9:00～10:30 4/18～4/24 9:00～11:00 4/25～5/8 9:00～11:30 5/9～5/31 月・水・金→9:00～11:30 火・木→9:00～13:00(弁当あり) 6/1～ 月・火・木→9:00～13:30 水→9:00～11:30 金→9:00～13:00 年中・年長組：月・火・木・金→9:00～14:00 水→9:00～11:30  *年長組 2024/2/20～2024/2/22 インフルエンザ蔓延で学級閉鎖  満三歳児 3歳の誕生日を迎えた翌月から入園可 入園して一週間程は11:00で降園し、様子を見て弁当を持ってきて、年少児と同じ降園時間まで過ごす。	A	三学期に年長組がインフルエンザによる学級閉鎖があったが、それ以外は年間を通して、継続した園生活を送った。

<p><b>3,保育の計画と実践</b></p> <p>子どもたちの成長に合わせて環境を設定し、季節ごとの制作を考えて、子どものやりたいことを汲み、実現できるように保育者が添った。 また、キリスト教保育においては、子どもの実態に合わせてカリキュラムを立案し、礼拝が身近なものになるように心がけた。□</p>	A	<p>保育者が子どもにやらせるのではなく、子どもの声を聞き、できることを一緒に考えた。子供たちと花や野菜を育て、それを収穫し、調理してみんなで食べる体験を多くした。また、セキセイインコや金魚に餌をやったり、クワガタやカブトムシの幼虫を観察したり、生き物を育て、命の大切さを実感する時だった。 これからの子どもの育ちを思う時、異年齢同士の育ちあいの力をもっと引き出さなくてはならないと感じている。不足を補う意識ではなく、今出来るベストな子どもの育ちを考える。□</p>
<p><b>4,行事</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類相当から5類感染症に引き下げになったことを受けて、保護者が参加できる行事も増えた。そのような中で、単に以前に戻るのではなく、運動会が実施される9月下旬は、気温が高いこともあり、午前中に納まるプログラムを考えたりして、その時にできること、適切なことを考えて、行った。</p>	A	<p>保護者参加の行事が復活したことで、実際に保育の様子を目で見てもらえる機会が増えたのはよかった。また、保護者のボランティアを募り、行事を参観するだけでなく、行事に参加するという気持ちでいてもらえることも増えた。今年度はひなまつりで祖父母の特技を披露していただき、新しい形での会で楽しいひとときだった。</p>
<p><b>5,保育の在り方・幼児への対応</b></p> <p>友だちや保育者とかかわり、自分らしくのびのびと過ごせることを大事にしてきた。自分の気持ちを発信し、また、友だちの思いにも気づく心が育つように、子ども同士とのやりとりを丁寧を支えた。</p>	A	<p>一人ひとりが安心して遊べるよう、友だちとの遊びも、一人遊びも充実できるよう支えてきた。個人の充実が他者との関わりに良い影響をもたらしたり、個人の安心感に繋がるので、一人ひとりの時間を大切にしつつ、仲間とのやりとりにも前向きになれるよう関わっていく。また、目の前で起きた事実だけではなく、その事実がおきた理由と一緒に探せる保育者でいるよう職員間で考えながら子どもと向き合うことを大切にしていきたい。</p>
<p><b>6,保護者への対応</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げになったので、学期に一度の個人面談や保護者会も行い、子どもたちの園生活の様子を、肌で感じられるようにする。 面談の期間外でも、必要に応じて保護者とやりとりをし、共通の認識で子どもの成長を支える。</p>	B	<p>保育参加がコロナ禍以降初めて行えたことで、保育の様子を肌で感じる機会を設けることができた。また、降園時の保護者とのやりとりの時間も大切にしながら、こまめに園生活の様子を伝えてきた。預かり保育を定期的に利用している保護者とは、より丁寧なやりとりを心がけた。</p>
<p><b>7,保育者の研修・資質向上</b></p> <p>保育者一人ひとり、そして園全体で質を上げていくために、できるだけ研修に参加する。</p>	B	<p>希望する者が、研修に参加しやすいように協力し合う。また、個々が学んだことを共有する時間を、大事にしていきたい。</p>

**学校運営**

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p><b>1,組織・園内分掌・会議</b></p> <p>園長、主任教諭、事務長のリーダーシップのもと、クラスや子どもの状況を全保育者間で共有した。各クラスの抱える課題は保育者みんなで考えを出し合い、支え合ってきた。</p>	A	<p>声に出す、メモを取るなどを意識し、スタッフ全員が共有できていることが幼稚園への信頼を高めることであるとよく自覚しあう。</p>

<p><b>2,出納・経理</b></p> <p>年度初めに園庭の整備のため外構工事を行い、夏期休業中には事務室床下の補修工事を行った。これら修繕費の支出により、事業活動収支はマイナスとなった。      保育料無償化は各居住市区とのやりとりが必要だが、今年度は他市在住の一時入園児の対応に大変時間がかかり苦労した。      10月に満3歳児保育を開始、以後園児数が漸増したことは、財政的にもありがたいことであった。</p>	A	<p>2025年度には10年に一度の外壁塗装工事を行う予定のため、2024年度から大きな出費に対する準備をしていきたい。      学納金の大幅増が見込めない中、各種補助金を活用し、安定した運営を目指したい。</p>
<p><b>3,施設・設備</b></p> <p>不具合を見つけたら直ぐに職員間で共有し、幼稚園を大切にしている意識が出てきている。また、子どもたちが安全に過ごせるように、日頃から点検を行う。子どもたちにも、物の大切さがわかるように声をかけてきた。</p>	A	<p>小さなことを見過ごさないで共有し、自分の持ち場だけでなく、保育にかかわる大切なこととして意識していく。</p>
<p><b>4,健康・安全</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置付けが2類相当から5類感染症に引き下げになったが、引き続き朝の体調に目を配り、体調がすぐれない場合は、登園を控えるように呼びかけた。      また、助手の働き方を上手に活用して、正規職員の負担が大きくなりすぎないように試行錯誤をしている。</p>	A	<p>手指消毒が任意になり、弁当を向かい合って食べるようにもなったので、園でも子どもの体調の変化に常に敏感であるようにした。      保育者においては、引き続き、時間の調整をうまくつけて、心身共に皆が元気に、効率よく仕事ができるよう、配置をよく考えていく。少しずつ形になってきていると思う。</p>
<p><b>5,情報</b></p> <p>ブログとホームページ、地域の掲示板サイトでの情報公開をしてきた。ブログは即時発信、ホームページは初めて見る人も分かりやすいように心がけて準備した。</p>	B	<p>ブログを見てくださる保護者も多くおり、園生活の現場を届ける媒体となっている。ホームページの閲覧数がもう少し伸びるとよいのだが、どのような情報公開の仕方が地域とつながりやすいのかは、現在模索中。</p>
<p><b>6,開かれた幼稚園</b></p> <p>3年ぶりに保育参加を再開した。また、様々な行事に父母や祖父母を招き、できるだけ園生活に参加してもらえるようにした。</p>	A	<p>園で子どもと触れ合うことによって、集団生活における子どもの姿を知る機会が増えたことは良かった。      また、卒園生の育ちに関する悩みも持ち込まれることが多くなり、その様子も気にかけること求められる時代になったことを感じている。  <input type="checkbox"/></p>
<p><b>7,保護者の会(オリーブの会)</b></p> <p>オリーブの会の幼稚園での活動が再開するようになり、11月は父親代表と保育者で企画したファミリーデーを実施した。</p>	A	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行以降、オリーブの会による、誕生会のおやつ作り、お楽しみの劇や合唱披露、絵本の読み聞かせなど、子どもたちと幼稚園の中で関わる機会が増えてきた。</p>
<p><b>8,園児募集</b></p> <p>今年度は、7月、9月の2回入園説明会を行った。子どもの様子を写真のスライドショーで見せながら伝え、幼稚園での生活を感じていただけるようにする。その際、満3歳児の受け入れを始めることも伝えた。社会的な問題として幼稚園の存続を考えていきたい。</p>	B	<p>ホームページでの園児募集事項をもう少し閲覧者に届きやすい情報の載せ方になるよう考えたい。</p>

<p><b>9,教育実習</b></p> <p>実習生を積極的に受け入れる。 志望者の減少や養成校の減少が著しい時代ではあるが、保育者を志すものが、この仕事に就きたいと思えるような実習の場として努めた。</p>	B	<p>子どもの生活は楽しい、子どもはかわいいと思う気持ちが育つことを願っている。</p>
---	---	--

**社会貢献**

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p><b>1,地域との連携</b></p> <p>卒園生の母たちも保護者の会(オリーブの会)の活動に参加したり、近隣の中学校の職場体験で、中学生が子どもとかかわる機会を設けた。地域の人々に愛されて育つことの大切さを保育者も保護者も意識出来るように過ごす。</p>	A	<p>9月に教育講演会を行ったときは、在園の保護者だけでなく、卒園生の保護者や地域の方にも参加を呼びかけたことは、よかった。 職員からのちょっとした挨拶や保護者のマナー(駐輪の仕方や大きな声、子どもを見ていることの大切さ等々)の感覚を育てることが地域に愛される幼稚園になる一歩であると考えている。</p>
<p><b>2,保育の公開</b></p> <p>2023年度は、3年ぶりに保育参加を再開し、行事の参加も増え、園で子どもと遊ぶ機会を多く設けられた。また、ホームページやブログを更新し、園の雰囲気公開していくことを心掛けた。</p>	A	<p>幼い子どもの暮らしがどのようにして出来上がっているのかを保護者に感じてもらうチャンスを意識して作る。</p>
<p><b>3,各種研究会への協力・支援</b></p> <p>園長は、キリスト教保育連盟講習会委員長、東京都私立幼稚園連合会教育研究委員として、研修会の企画と運営に携わっているため、保育者も出来る限りの協力をしていく。</p>	A	<p>学びや感性を研ぎ澄ませるチャンスは様々なところにある。常にアンテナを張って、過ごしたい。</p>

**結果について**

- A 十分に達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んだが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

**今後(2024年度)へ向けて**

幼稚園は、子どもたちが友だちや保育者とのかかわりを通して、楽しさや喜びを感じ、時には葛藤しながら心身共に育っていく場でありたい。日々の遊びや礼拝を通して、心が満たされ、安心して過ごせるように、子どもを理解し、寄り添う保育に努めたい。

今や、地方だけに限らず、東京のどの園も等しく少子化の荒波を受け止めているところで、東京はここからの数年が、各園にとっての正念場となると予想される。キリスト教保育を使命とし、良い保育を追求してきた幼稚園も「子どもに寄り添う保育」は当然としても、園の魅力となる「プラスα」が何であるのかを考え、実践していきたい。刺激の仕様がたくさん生まれるような遊びの場の設定や活動内容を考える余地が至るところにある。保育者同士で共有し、高めあいながら保育を作ることに喜びを感じながら歩む者でありたい。また、この時代に手と心をかけて子育てをしようと相愛幼稚園に入園させた親の気持ちにも寄り添いたい。保育者と保護者は、関わりを丁寧に重ねて、共に尊重し、助けあい、相互の理解を深めていきたい。